

おうち

テーマ 地域のちから



子どもがお世話になっていた保育園では、毎年一月に「どんど焼き」に欠かせない「繭玉だんご」を作る行事がありました。紅い樹皮のミズキの枝の先に三色のだんごをさした繭玉だんごは、家に飾るだけでも季節感があふれ華やかになります。しばらくして、住んでいる地区でもどんど焼きが行われていることを知り、子どもたちも行ってみようというので、繭玉だんごを持って参加してみることになりました。

燃える櫓の周りにはすでに多くの人たちが集まり、だんごを焼いたり、お正月飾りを焚き上げたりして賑わっています。どんど焼きの主催は地区の自治会で、育成会や消防団の方も協力してくださっています。消防団の方たちが安全に気を配る中、子どもたちは火を囲みながら、育成会の方が用意してくれたおでんを食べ、談笑しています。寒い中での行事ですが、炎だけでは足りない温かさを感じる時間となりました。

今住んでいる地域は、私のように新しく移り住んできた方が多くなった地域です。そのような人たちにとって、このような行事は地域とのつながりを感じられる貴重な機会となります。地域のために数多くの方々がこの伝統的な行事を続けてくださっていることに感謝いたします。

子どもたちにとっても、このような行事に参加することは、自分たちの住む地域に愛着をもつきっかけになることでしょう。そして、このことはよい思い出となり、やがて地域の伝統を受け継ぐ人材になっていくのだろーうと思います。地域の力はこのようにして育まれ、受け継がれていくものなのでしょう。



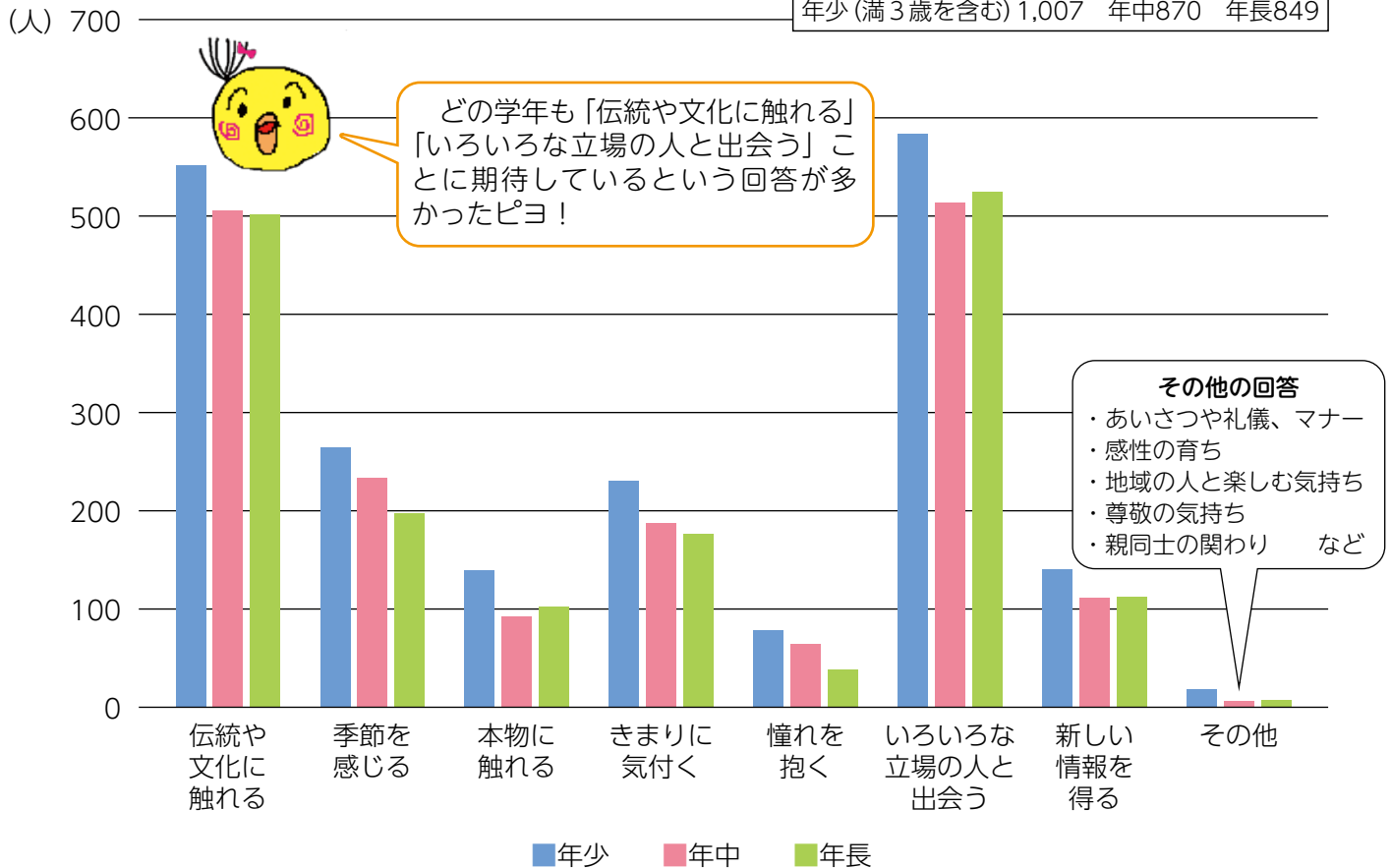
栃木県幼児教育センター長
堀江 賢



保護者はどう思っているの？

Q お子さんが地域と関わることを通して、保護者としてどのようなことを期待しますか？
(複数回答)

保護者アンケート (2020年3月実施)
県内の3～5歳の子をもつ保護者 回答数2,726
年少(満3歳を含む) 1,007 年中870 年長849



園や家庭での生活ではなかなか得られない体験を通して、子どもの世界を広げていきたいという思いが感じられます。地域の中には、たくさん学びの場があるんですね。

アンケートに寄せられたエピソード・意見の紹介

散歩をしながら、「春にはどんな花が咲く？夏は？」と話したり、虫を探したりすることで、季節を感じることができるようになってきました。

(陽南第二幼稚園)

絵本を借りに行った時、自分より小さい子に自然と優しく接していてびっくりしました。きちんと敬語を使って挨拶をして褒められ、喜んでいました。

(小山市立もみじ保育所)

転勤が多く、引越し先では、必ず近所の方と積極的にお付き合いするようにしています。挨拶やおすそわけなど、園や家族の生活だけでは得られないものが、地域の方との関わりで学べると思っています。

(宇都宮大学共同教育学部附属幼稚園)

今まで怖がっていたどんと焼きに行くことができました。友達が行くと聞き、自分も行こうという話になったのだと思います。身近な地域のイベントは子どもたちの中で盛り上がっているのだと気付かされました。

(栃木市認定西方なかよしこども園)

お祭りや行事が多くあるので、子どもたちと一緒に参加しています。名前を覚えてもらい、かわいがってもらえるので、子どもたちもうれしいようです。人との関わり、地域の関わりっていいなと思います。

(認定こども園バンビ幼稚園)



中高生とのふれあい



中学生とは職場体験や福祉委員会との交流会、高校生とは職業体験や家庭科の授業で交流をしています。子どもたちは、体を使って遊んでくれるお兄さんやお姉さんが大好きです。すぐに慣れ、歓声をあげて園庭を元気に走り回って遊びます。

大人ではない近い存在のお兄さんやお姉さんの行動、言葉、生活の仕方等から学んだり、いろいろな考えがあることを知って見本にしたり、憧れをもったりしています。

交流後は、足ジャンケンや鬼決めの仕方等、体験したことを遊びや生活の中に取り入れる姿が見られます。中学生が用意してくれた魚釣りごっこから遊びが発展して、自分たちで必要な材料を準備して作ったり、ルールや点数を決めて遊んだりする姿も見られ、知的な好奇心が育まれる様子も見られました。近くのスーパーやコンビニで偶然会って話をしたこと等、うれしそうに話す子もいました。交流を通して、地域の人や学校に興味や関心をもったり、いろいろな価値観・考え方を知るとともに、規範意識の芽生えが培われたりすることを願っています。



認定こども園黒羽幼稚園



お年寄りとの交流



老人施設が園に隣接しています。歩いて訪問でき、窓越しに手を振り合うくらい親しく交流しています。

祖父母と暮らす子どもが少なくなっているため、友達や先生だけでなく、世代を超えて交流をもつことを目指して活動しています。

昨年度は、地区の敬老会に招待していただきました。子どもたちを受け止めて褒めてくれることはもちろん、自分の孫やひ孫のように接してくれ、礼儀、挨拶の仕方や言葉遣いなども教えてくれます。子どもたちは、心豊かで知識豊富なおじいちゃんやおばあちゃんに教えてもらうことで素直に聞いています。おじいちゃんやおばあちゃんと手をつないで歩く時には、普段は走り回ってしまいそうな元気な子どもたちも、おじいちゃんやおばあちゃんに合わせて動いていました。

交流後は、年下の友達や先生など、相手の様子を見て気遣って行動しようとする姿が見られるようになりました。

足利短期大学附属幼稚園



どうやって関わったらいいの？



栃木県総合教育センター生涯学習部の小柳社会教育主事にきいてみたピヨ！

地域と関わることで、人とのつながりが広がり、子育てについて相談できたり、学びあえたりするなど、より子育てしやすい環境になります。また、親子で地域との関わりを深めることは、子どもが「自分の住む地域を愛し、守る気持ちを育む」きっかけにもなります。

人間関係の希薄化に加え、新しい生活様式に取り組む中で、周囲の人や地域とどのように関わっていけばよいか模索されているところですが、支え合うことのできる「絆づくり」を進めることは大切です。

県や各市町では、感染症対策をしながら、子育てに関する講座やイベントが再開されていますので、地域と関わる第一歩として、保護者同士で声を掛け合い、参加してみてもいいでしょうか？



小柳
社会教育主事

どんな人が活躍しているの？

それぞれの地域で、家庭教育オピニオンリーダーが活躍しています。親子が触れ合いながら体験する活動を実施したり、子育てに関する相談に乗ったり、豊かな体験やつながりの場を親や子どもに提供しています。

どうやって情報を得たらいいの？

栃木県総合教育センター生涯学習部では、「とちぎレインボーネット」で子育て・家庭教育についてなど、様々な情報を発信しています。イベント情報検索では、開催日や地域等を選んで地域のイベントを見つけることができます。

くわしくは、こちら

とちぎレインボーネット

検索

<https://www.tochigi-edu.ed.jp/rainbow-net/>

栃木子どもの本連絡会 からの

オススメ

「ふわふわふとん」

福音館書店

カズコ・G・ストーン 作



栃木子どもの本連絡会
高橋 尚美さん

虫たちの住むやなぎむらに冬が来ました。秋に落ち葉で作ったやなぎハウスで冬を越します。風の強い日には少し寒いこともあります。ある日みんなで温かいおふとんを探しに出かけ、野原でふわふわしてあったかそうな「ががいの種」を見つけました。

「ががいの種」はクサパンヤとも言って綿の代用にも…。野原に「ががいの種」を見つけに行きたくなります。

「子どもに読書のよこびを」をテーマに1979年から活動しています。興味のある方は、ぜひHPを御覧ください。

<http://tochiko.holy.jp/>

家庭教育ホットライン (保護者専用)

なやむな
TEL028-665-7867



受付時間

月～金曜日 午前8:30～午後9:30

土曜日 午前8:30～午後5:30

(日曜祝日、年末年始等は留守番電話・FAXでの受付となります。)

保護者のみなさん!お子さんの育児、子育て、しつけ等家庭教育のことや友達、いじめ等対人関係のことなどで困っていること、悩んでいることはありませんか?

秘密は絶対に守ります!一人で悩まず気軽に御相談ください!

メール相談はこちら

ホットほっとメール相談

検索



やめようと 言える勇気で いじめゼロ

栃木県教育委員会



幼児教育情報誌「うち」 第37号
発行者 栃木県総合教育センター幼児教育部
(栃木県幼児教育センター)

URL: <http://www.tochigi-edu.ed.jp/center/youji/>

※Webサイトでバックナンバーを見ることができます。

令和2年12月1日発行

〒320-0002 宇都宮市瓦谷町1070

TEL: 028-665-7215 FAX: 028-665-7216

E-MAIL: yokyo-c@tochigi-edu.ed.jp



マスコット ぴよちゃん